

円背
対応

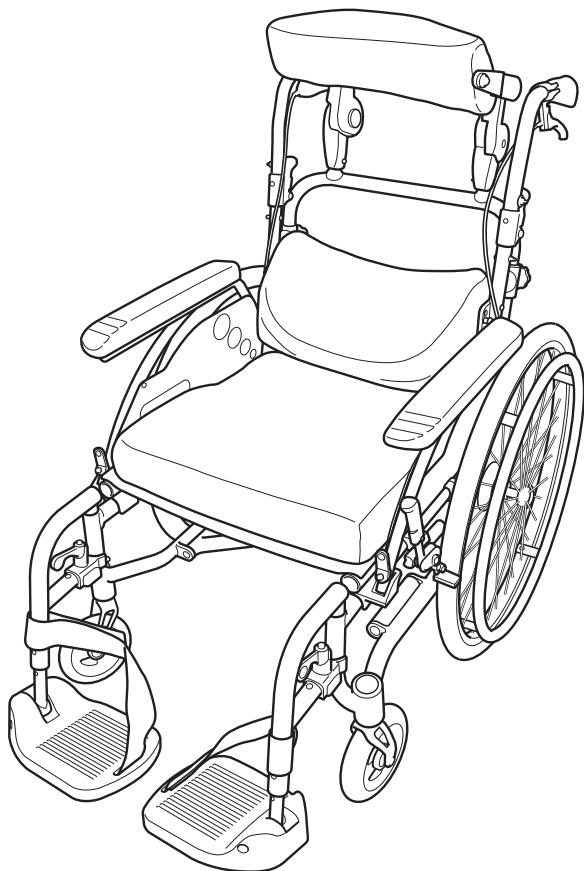
multi Fit

- マルチフィット車いす -

MFW-ENJ415

取扱説明書

900590-8900



まえがき

このたびはフランスベッドの製品をお買いあげいただきまして、ありがとうございます。

この取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくための注意事項と使用方法を記載しています。

- 安全のため、必ずこの取扱説明書をよく読み、内容を十分理解してから使用してください。
- 取扱説明書を読んだ後は、いつでも必要なときに取り出せるように、所定の場所に保管してください。

製品を安全にご使用いただくために

- 利用者最大体重は、持ち物、衣類などを含めた重さです。体重制限を守って使用してください。
- 段差や凹凸などのある路面などを走行するときは、前のめりにならないように、注意して操作してください。

使用前には必ず点検を行ってください

- フレーム本体にガタつきがないことを確認してください。
- 各部のネジなどにゆるみがないことを確認してください。
- 駐車用ブレーキ、介助用ブレーキにガタつき、ゆるみがないことを確認してください。
- 駐車用ブレーキ、介助用ブレーキがしっかりと効くか確認してください。
- 駆動輪のタイヤ、ハンドリムが破損していないことを確認してください。
- 駆動輪のタイヤの溝がなくなりかけていないことを確認してください。
- 駆動輪がしっかりと取り付けられていて抜けないことを確認してください。
- 駆動輪にガタつきがないことを確認してください。
- キャスターが劣化、破損していないことを確認してください。
- キャスターにガタつきがないことを確認してください。
- 専用クッションが破損していないことを確認してください。
- 製品に異常がある場合は使用を中止して、販売店または弊社お客様相談室へ連絡してください。

もくじ

確認してください	3	車いすのたたみかた	24
はじめに	3	フットサポートの閉じかた	24
車いすの適合の目安	3	専用クッションの取り外しかた	24
同梱物の確認	3	ショルダーサポートの取り外しかた	24
安全上のご注意	4	ランバーサポートの取り外しかた	25
安全のために必ずお守りください	4	フット・レッグサポートの取り外しかた	25
各部の名称	6	手押しハンドルのたたみかた	26
前面	6	車いすフレーム本体のたたみかた	26
背面	6	使用上のご注意	27
注意ラベル・警告ラベル・操作ラベル	7	保守・点検	27
本製品の特徴	7	お手入れ・保管方法	28
ショルダーサポート	7	困ったときには	29
ランバーサポート	7	こんなときには	29
駐車用ブレーキ	7	アフターサービス	30
車いすの組み立てかた	8	耐用年数	30
車いすフレーム本体の開きかた	8	廃棄方法	30
手押しハンドルの起こしかた	8	仕様	31
フット・レッグサポートの取り付けかた	9	製品の仕様	31
ランバーサポートの取り付けかた	9	保証書	裏表紙
ショルダーサポートの取り付けかた	10		
専用クッションの取り付けかた	10		
フットサポートの開きかた	10		
車いすの使いかた	11		
駐車用ブレーキの使いかた	11		
介助用ブレーキの使いかた	12		
乗り降りのしかた	13		
走行中の注意	15		
車いすの動かしかた(自走)	15		
車いすの動かしかた(介助)	15		
各部の調節	18		
ショルダーサポート	18		
ランバーサポート	19		
アームサポート	20		
レッグサポート	21		
フットサポート	22		

確認してください

はじめに

本製品は自走用の車いすで、1人乗りです。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。

本製品は、座位の角度調整機構(リクライニング、ティルトなど)がなく、利用者がハンドリムを操作して駆動する自走用車いすです。

日常生活用に設計されており、特別な使用目的(スポーツ、入浴など)のものではありません。

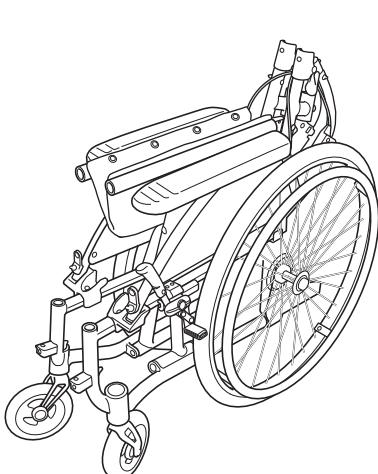
また、立ち上がり補助装置ではありません。

車いすの適合の目安

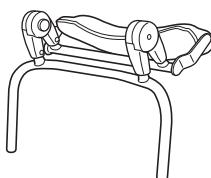
- ・駐車用ブレーキを解除する操作が理解できる方
- ・フットサポートを折りたたむ操作ができる方
- ・体重100kg以下の方(持ち物、衣類などを含めた重さ)

同梱物の確認

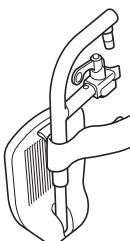
本製品の購入後、はじめて梱包箱を開けるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。



車いすフレーム本体



ショルダーサポート



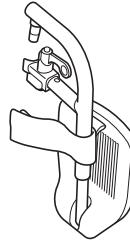
フット・レッグサポート(左足)



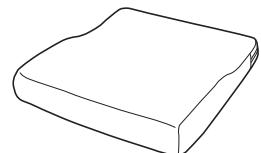
ノブボルト



ランバーサポート



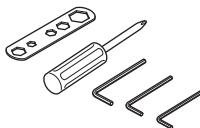
フット・レッグサポート(右足)



専用クッション



取扱説明書
(※本書)



工具
板スパナ：1個
ドライバー：1個
六角レンチ：3個(3mm/4mm/5mm)

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください

この取扱説明書および製品の表示では、製品を安全に正しく使用していただき、利用者への危害や財産への損害を未然に防止するために下記の絵表示をしています。内容をよく理解したうえで、本文をお読みください。

● 表示の意味



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が生命に関わるケガを負う可能性が想定される内容を示します。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

● 記号の意味



この記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
(～しないでください)



この記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
(～してください)



この記号は、絵表示に対する行為を禁止する内容を告げるものです。



- 乗り降りの際および停止時には、必ず両側の駐車用ブレーキをかけてください。
駐車用ブレーキがかかるといいと車いすが動きだし、衝突や利用者の転倒事故につながるおそれがあります。駐車用ブレーキのレバーが止まる位置まで確実に操作してください。駐車用ブレーキをかけても床の材質によっては車いすが動く事がありますのでご注意ください。
- 乗り降りの際に、折りたたんだフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
ケガをするおそれがあります。
- 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、利用者が後方に転倒するおそれがあります。
- 自力で操作不可能な坂道、凹凸や段差、溝のある場所の移動では、介助者による介助を行ってください。

- 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。
また、介助用ブレーキを使いスピードを落としてください。
- 介助用ブレーキは左右同時に握ってかけてください。片側のみだと転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
傾斜のある場所での走行、駐車には十分注意してください。駐車用ブレーキをかけていても車いすが動いたり、転倒して重大な事故になる可能性があります。
- 駆動輪のタイヤの摩耗に注意してください。
駆動輪のタイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。駐車用ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店または弊社お客様相談室へ調整の依頼をしてください。



- 乗り降りの際には駐車用ブレーキのレバーに体重をかけないでください。
駐車用ブレーキのレバーが破損、変形し、転倒するおそれがあります。
- スピードを出さないでください。
スピードが出ていて急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。
- 走行中にフットサポートを踏まないでください。
事故、ケガ、故障の原因となります。

- 手押しハンドル、ランバーサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスをくずし、転倒するおそれがあります。
- 車いすの改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やケガにつながるおそれがあります。
- 直射日光の当たる場所、高温になる場所(火気のある場所)、湿気の多い場所、雨のあたる場所に保管、放置しないでください。
- 子供が遊びに使えるような場所に保管、放置しないでください。

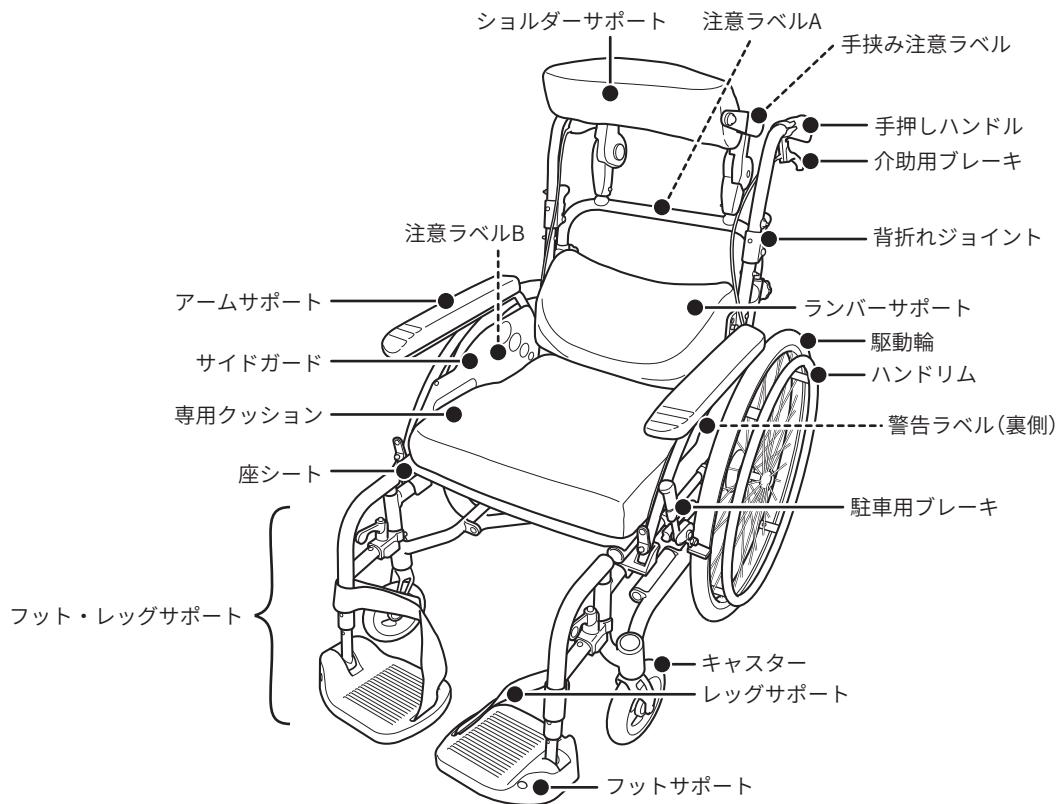
安全上のご注意

⚠ 注意

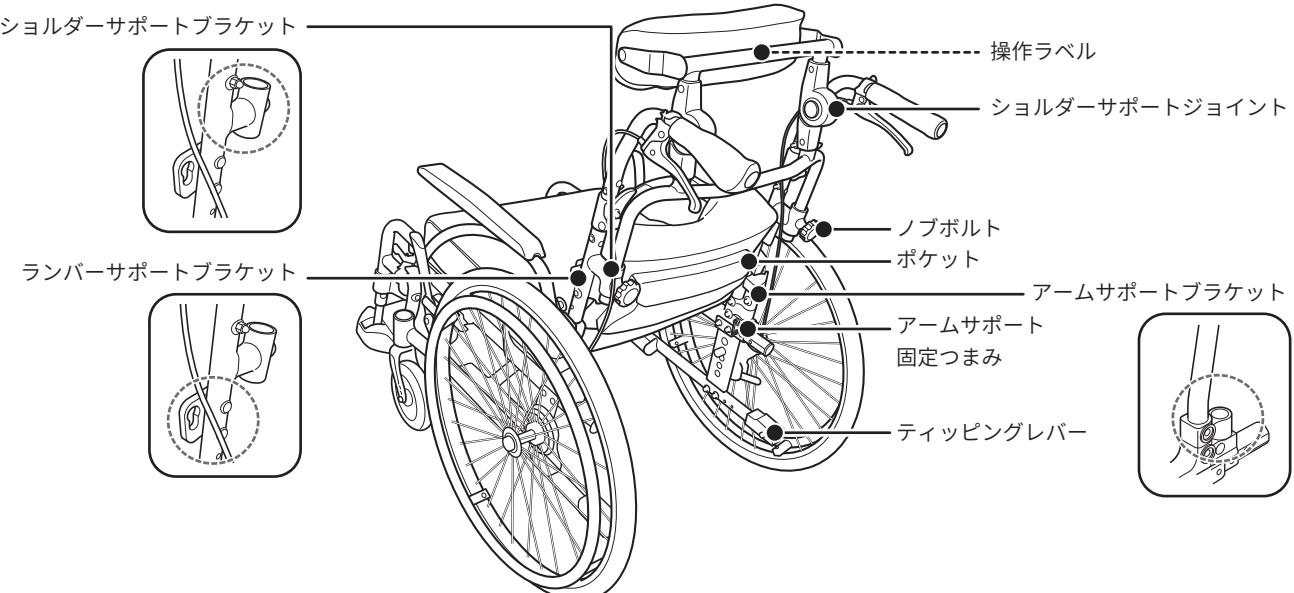
- | | | |
|---|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none">最大耐荷重は100kg(積載物も含む)です。起伏の激しい路面や毛足の長いじゅうたんの上などではスムーズな走行が妨げられる可能性があり危険です。特に屋外での使用の際は段差や凹凸物に十分ご注意ください。背折れジョイント、フット・レッグサポートなどの可動部の隙間に指や身体をはさまないよう注意してください。段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。車いすの破損や故障の原因となります。操作中に異常な音や振動が発生したら、すみやかに使用を中止してください。事故やケガにつながるおそれがあります。走行中、足がフットサポートからはずれて、落ちないようにしてください。介助者は利用者が車いすに安全に座っているか確認をしてから操作を行ってください。介助者は走行中に利用者の体や衣服が駆動輪、キャスター、地面、建物、通行者に触れたり挟まったりしないように注意して操作を行ってください。走行中、身体を乗り出したりして、走行の安全性を損なうことのないように注意してください。 | <ul style="list-style-type: none">使用する前に駆動輪、キャスター、駐車用ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。車いすが動きだし、事故やケガにつながるおそれがあります。車いすを持ちあげるときは腰痛に注意してください。1人で持ち上げるのが困難な場合は必ず2人以上で持ち上げてください(運搬時はショルダーサポート、ランバーサポート、フット・レッグサポート、専用クッションを取り外すことで重量を軽くすることができます)。車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。車いすの破損や故障の原因となります。車いすを折りたたむときは手を挟まないように注意してください。フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。フット・レッグサポートが動いてバランスをくずすおそれがあります。 |
|  | <ul style="list-style-type: none">この車いすは大人用です。12歳以下の子供、新生児、幼児などには使用させないでください。また取扱説明書、注意ラベルの内容が理解できない方には使用させないでください。思わぬ事故の原因となります。車いすを投げたり落としたりしないでください。この車いすは1人用です。2人以上の乗車や、車いすに搭乗しての移動、休息といった目的以外での使用はしないでください。利用者が乗車中は、背折れジョイントの操作は絶対に行なわないでください。背折れジョイントの可動部で手や腕を挟むおそれがあります。車いすを開くときに、座シートのパイプ部分を握って押し下げないでください。手を挟んでケガをするおそれがあります。介助者は車いすに乗って介助をしないでください。倒れかかるような座り方はしないでください。車いすが転倒したり、破損する原因となります。タイヤを持ってこがないでください。自走する場合、必ずハンドリムを使用してください。手を挟んでケガをするおそれがあります。 | <ul style="list-style-type: none">フットサポートの下には足を入れないでください。足を地面でこすったり、フットサポートやキャスターなどに足をぶつけてケガをするおそれがあります。アームサポートの下に腕などを入れないでください。ケガをするおそれがあります。フットサポートを片側だけ踏まないでください。バランスをくずして転倒するなど事故、ケガ、故障の原因となります。走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながるおそれがあります。フットサポートを足で折りたたむときは、素足では行わないでください。ケガをするおそれがあります。専用クッションの下に手や指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。シンナー、ベンジンなどの溶剤は、使用しないでください。製品を傷めるおそれがあります。 |

各部の名称

前面



背面



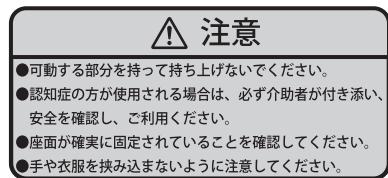
各部の名称

注意ラベル・警告ラベル・操作ラベル

注意ラベル・警告ラベル・操作ラベルの表示は、以下の通りとなっています。



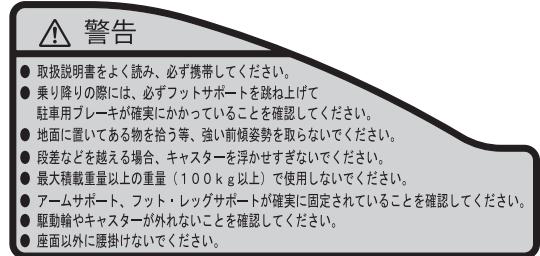
注意ラベルA



注意ラベルB



手挟み注意ラベル



警告ラベル



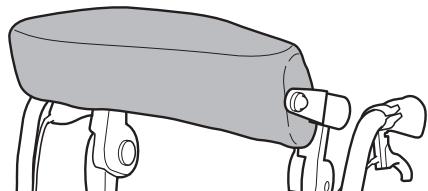
操作ラベル

本製品の特徴

ショルダーサポート

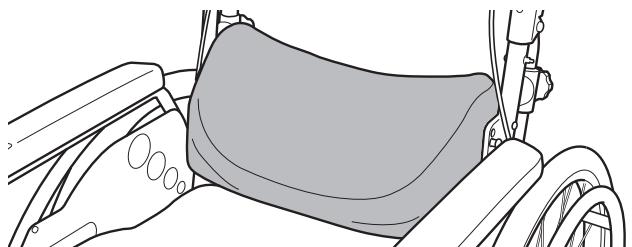
ショルダーサポートは、高さが5段階、角度を前側5段階から選ぶことができ、利用者の肩の位置に合わせることができます。(→18ページ)

※角度の後ろ側7段階は使用しません。



ランバーサポート

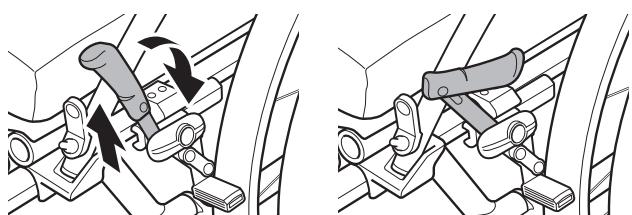
ランバーサポートは、高さが2段階、前後を2段階から選ぶことができ、利用者の腰の位置に合わせることができます。(→19ページ)



駐車用ブレーキ

駐車用ブレーキは、ブレーキをかけた状態でブレーキレバーを折りたたむことができます。

ブレーキレバーを折りたたむことで、車いすの乗り降りやベッドへの移動などがスムーズに行えます。(→11ページ)

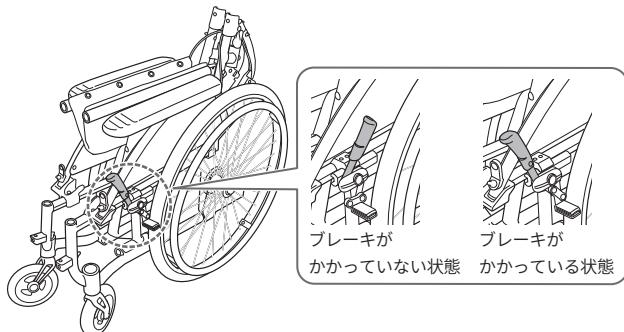


車いすの組み立てかた

車いすフレーム本体の開きかた

- 1.両側の駐車用ブレーキがかかっていることを確認します。

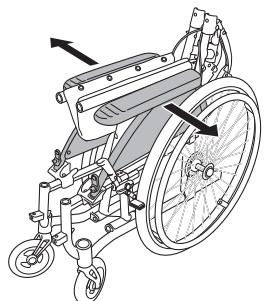
ブレーキがかかっていない場合は、ブレーキをかけてください。(→11ページ)



△ 注意

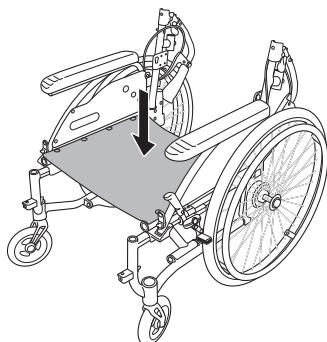
- !
 - 必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。駐車用ブレーキをかけずに操作を行った場合、車いすが動くなど思わぬ事故の原因となります。

- 2.左右のアームサポートを持ち、車いすの前方または後方から、車いすフレーム本体を軽く左右に開きます。



- 3.座シートを両手で押し、車いすを広げます。

手のひらでしっかりと座シートを押し、カチッと音がするまで広げてください。



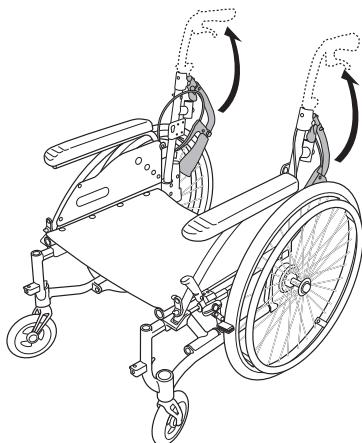
△ 注意

- !
 - サイドガードの隙間に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。
 - 座シートのパイプ部分を握って座シートを広げないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。

手押しハンドルの起こしかた

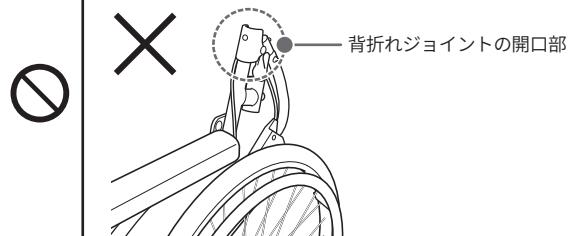
両側の手押しハンドルを握り、持ち上げます。

背折れジョイントからカチッと音がすることを確認してください。



△ 注意

- !
 - 背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。

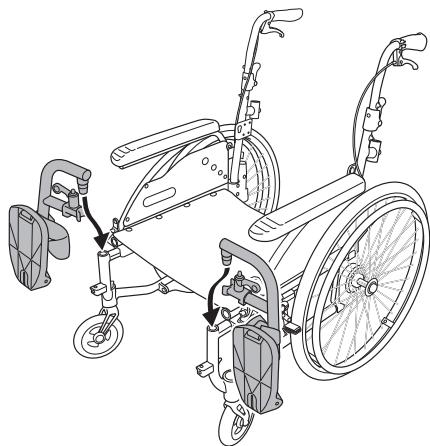


車いすの組み立てかた

フット・レッグサポートの取り付けかた

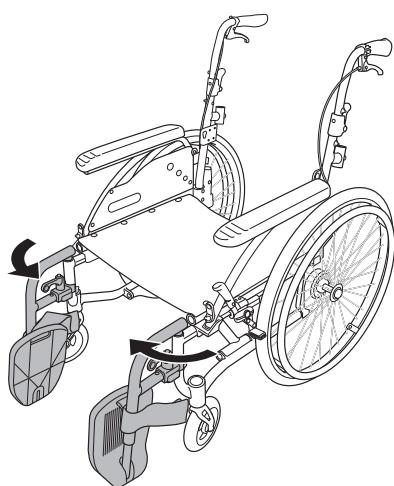
1. フット・レッグサポートを外側に向け、車いすフレーム本体に取り付けます。

フット・レッグサポートは左右で形が異なります。
誤って反対に取り付けないように注意してください。



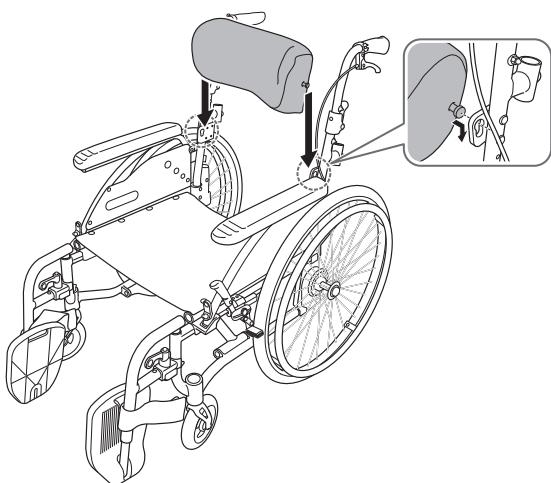
2. フット・レッグサポートを外側から内側に回転させて固定します。

フット・レッグサポートからカチッと音がして、自動的にロックがかかります。固定されていることを確認してください。



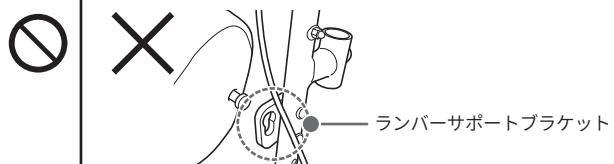
ランバーサポートの取り付けかた

ランバーサポートを両手で持ち、内側にたわませながらブラケットの溝に取り付けます。



△ 注意

- ・ランバーサポートブラケットの隙間に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。

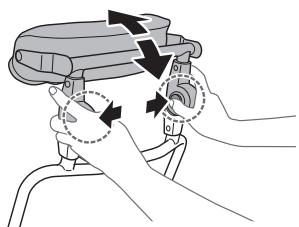


車いすの組み立てかた

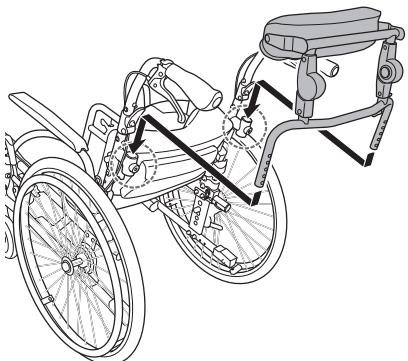
ショルダーサポートの取り付けかた

1. ショルダーサポートの向きを調節します。

左右のジョイントのボタン部分を両手でしっかりと押しながらショルダーサポート動かし、まっすぐにしてから両手を離して固定してください。

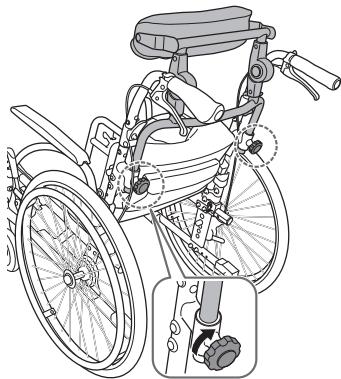


2. ショルダーサポートをブラケットに差し込みます。



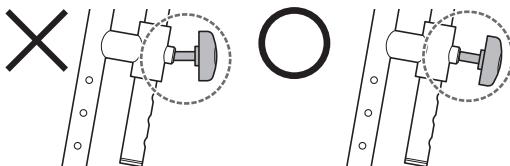
3. 固定したい位置にあわせて、ノブボルトで固定します。

ノブボルトは時計回りに回すと締まります。



△ 注意

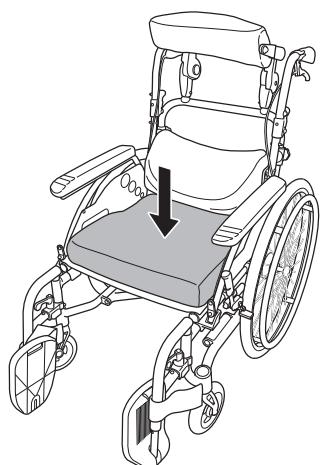
- ノブボルトは無理に締め込まないでください。無理に締め込むとブラケットのねじ部が破損する恐れがあります。必ずノブボルトの角度を確認してください。



専用クッションの取り付けかた

専用クッションを座シートの上に置きます。

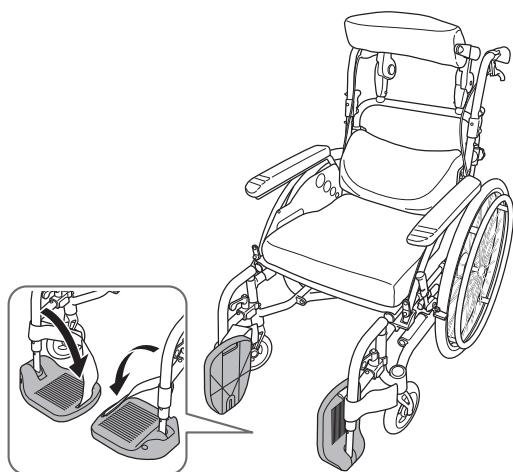
専用クッションは、厚みがある部分を前方にして置いてください。



フットサポートの開きかた

フットサポートを内側に倒して開きます。

フットサポートは、利用者が車いすに乗ってから開いてください。



△ 注意

- フットサポートを開くときは足に当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。

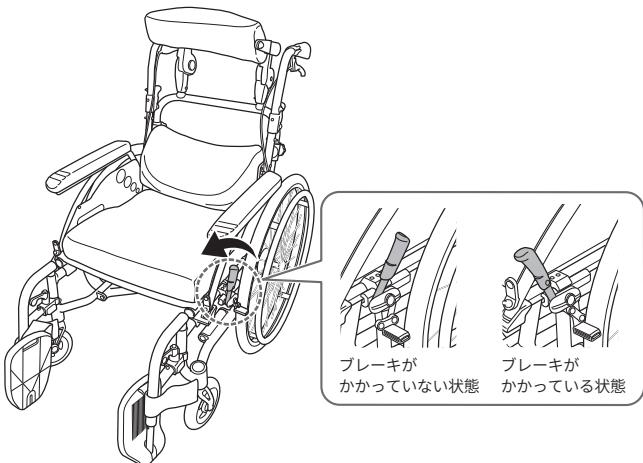
車いすの使いかた

駐車用ブレーキの使いかた

● 駐車用ブレーキのかけかた

1. 両側の駐車用ブレーキレバーを前方に倒します。

ブレーキがかかると、カチッという音がします。



2. ブレーキがかかっていることを確認します。

駐車用ブレーキが駆動輪に当たっていることを確認してください。

⚠ 警告

● ! 乗り降りの際および停止時には、必ず両側の駐車用ブレーキをかけてください。駐車用ブレーキがかかるっていないと車いすが動きだし、衝突や利用者の転倒事故につながるおそれがあります。駐車用ブレーキは、駐車用ブレーキが止まる位置まで確実に操作してください。

● ! 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道などの傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒などの事故につながるおそれがあります。

● ! タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。駐車用ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店または弊社お客様相談室へ調整の依頼をしてください。

● ! 乗り降りの際には駐車用ブレーキに体重をかけないでください。駐車用ブレーキが破損・変形し、転倒するおそれがあります。

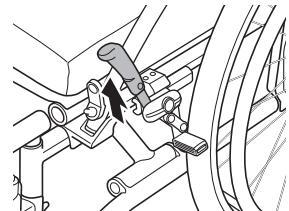
● ! 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

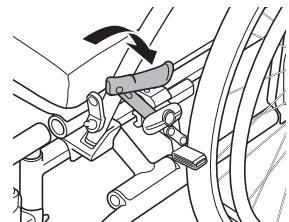
● ! 駐車用ブレーキをかけていても、強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので十分注意してください。

● 駐車用ブレーキの折りたたみかた

1. 駐車用ブレーキレバーを上方向に引っ張り、持ち上げます。



2. 持ち上げたブレーキレバーを内側に引き、折りたたみます。

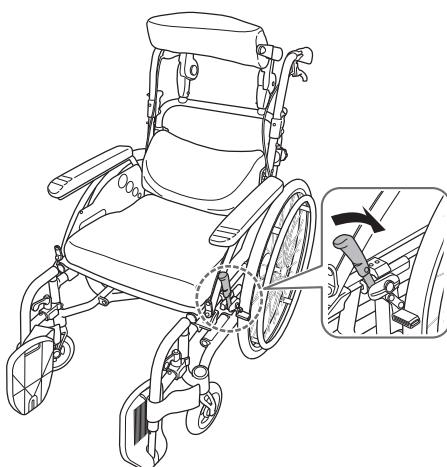


3. 逆の動作をすることで、ブレーキレバーがもとの状態に戻ります。

● 駐車用ブレーキの解除のしかた

1. 両側の駐車用ブレーキレバーを後方に倒します。

ブレーキレバーが折りたたまれている場合は、ブレーキレバーをもとの状態に戻してください。



2. ブレーキが解除されていることを確認します。

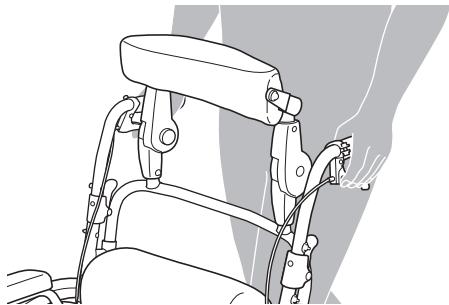
駐車用ブレーキが駆動輪に当たっていないことを確認してください。

車いすの使いかた

介助用ブレーキの使いかた

● 介助用ブレーキのかけかた

介助者が手押しハンドルと介助用ブレーキレバーを左右同時に握ります。



⚠ 警告

!	<ul style="list-style-type: none">介助用ブレーキは左右同時に握ってかけてください。片側のみだと転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、介助用ブレーキを定期的に使い、スピードを落としてください。
🚫	<ul style="list-style-type: none">スピードは出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

!	<ul style="list-style-type: none">ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に点検してください(交換の目安: ほつれ、サビが発生したとき)。介助用ブレーキの握りしろが多くなったり、左右が違ってきたらブレーキワイヤーの調整を行ってください。
🚫	<ul style="list-style-type: none">介助用ブレーキをかけたままの状態で坂を下りないでください。故障の原因になります。介助用ブレーキは補助として使用し、駐車ブレーキとして使用しないでください。

● 介助用ブレーキの解除のしかた

介助者が介助用ブレーキレバーから手を離します。手を離した瞬間にブレーキが解除されます。

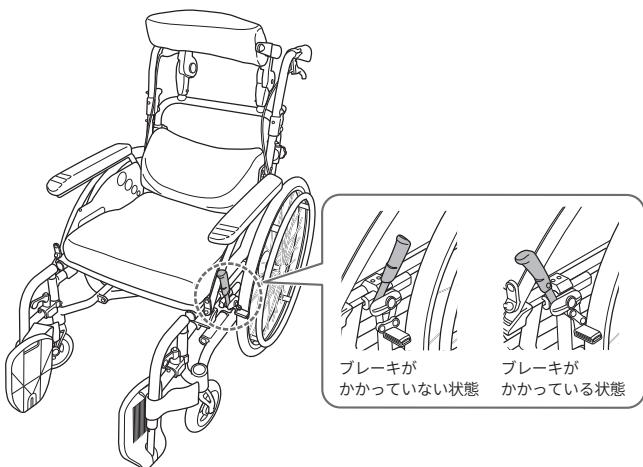
車いすの使いかた

乗り降りのしかた

● 乗りかた

1. 両側の駐車用ブレーキがかかっていることを確認します。

ブレーキがかかっていない場合は、ブレーキをかけてください。(→11ページ)

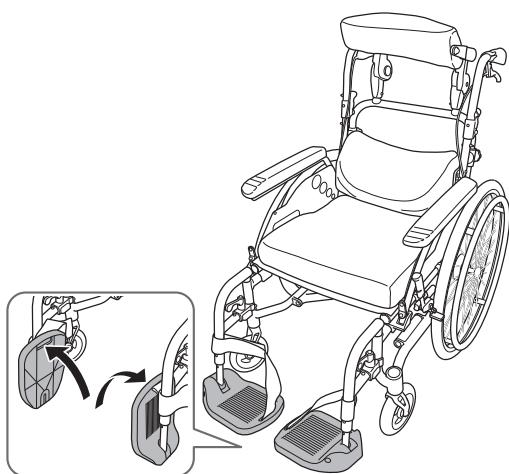


⚠ 警告

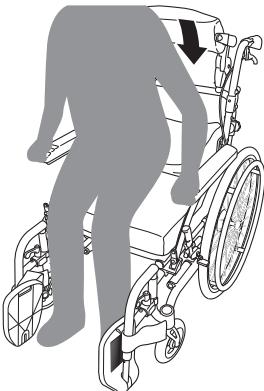


- 車いすに乗るときは、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。

2. フットサポートが開いている場合は、外側に倒してたたみます。



3. 車いすをしっかりと保持しながら、座面後方にお尻がくるように奥までしっかりと腰掛けます。



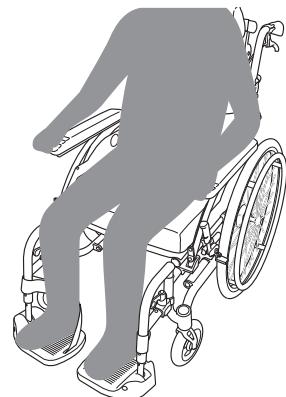
⚠ 注意



- 折りたたんだフットサポートに足に当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。
- フット・レッグサポートに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。

4. フットサポートを開いて足を乗せます。

フットサポートは利用者が車いすに乗ってから開いてください。



⚠ 注意



- フットサポートを開くときは足に当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。
- フットサポートを片足で踏まないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。
- フットサポートに飛び乗らないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。

上記の乗りかたは、ほんの一例です。

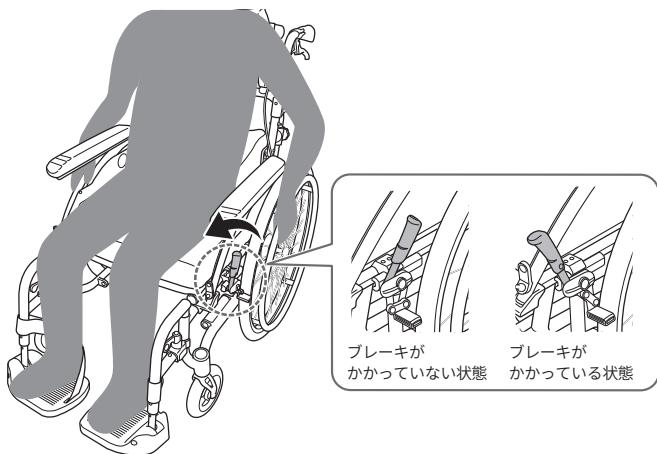
利用者の症状・使用環境などにあわせてご利用ください。
一人での乗り降りが難しい方は、介助者または付き添いの方に手伝ってもらってください。

車いすの使いかた

乗り降りのしかた

● 降りかた

- 両側の駐車用ブレーキをかけます。(→11ページ)

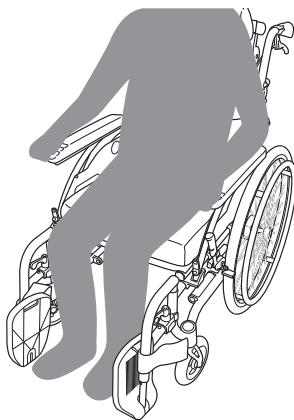


⚠ 警告



- 車いすから降りるときは、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。

- 両側のフットサポートを外側に倒してたたみます。

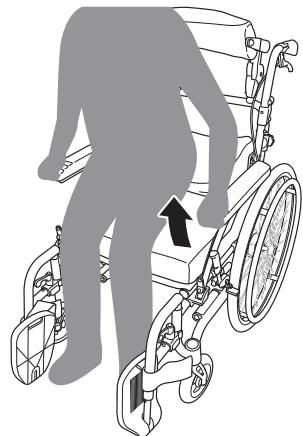


⚠ 注意



- 折りたたんだフットサポートに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。
- フット・レッグサポートに足が当たらないよう注意してください。ケガをするおそれがあります。

- 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくりと車いすから降ります。



⚠ 注意



- フットサポートを片足で踏まないでください。事故、ケガ、故障の原因となります。

上記の降りかたは、ほんの一例です。

利用者の症状・使用環境などにあわせてご利用ください。
一人での乗り降りが難しい方は、介助者または付き添いの方に手伝ってもらってください。

車いすの使いかた

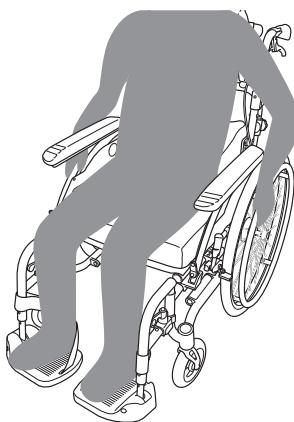
走行上の注意

- 車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないように充分注意してください。
- 溝や踏切などでの落輪、キャスターの挟み込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。

車いすの動かしかた(自走)

● ハンドリムの使いかた

利用者がハンドリムを回転させて移動します。



⚠ 注意



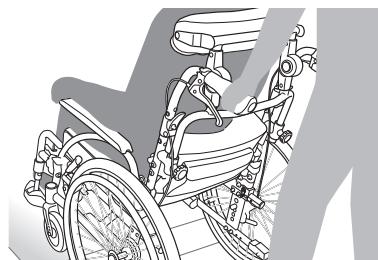
- ・タイヤを持ってこがないでください。自走する場合、必ずハンドリムを使用してください。

車いすの動かしかた(介助)

● 手押しハンドルの使いかた

手押しハンドルは、介助者が車いすを移動させるときに使用します。

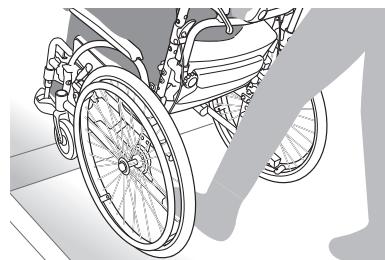
使用時は手押しハンドルをしっかりと両手で握り、介助用ブレーキに手が届くようにしてお使いください。



● ティッピングレバーの使いかた

ティッピングレバーは、介助者が利用者を乗せて段差の上り下りをするときなどに使用します。

ティッピングレバーを踏むことで前輪が浮き上がります。使用時は事前に足元の安全を確認してください。



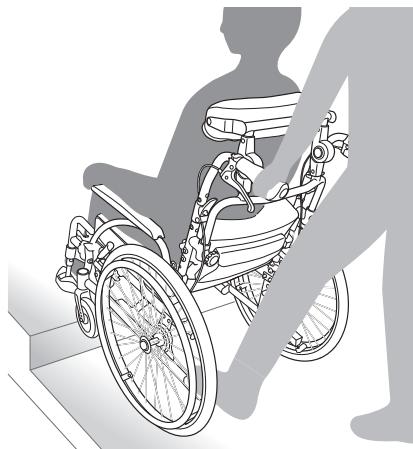
車いすの使いかた

車いすの動かしかた(介助)

● 段差の上り下り

1. 段差に対して車いすを直角に近づけて前へ押し出すように踏み、同時に手押しハンドルを押し下げて、キャスターを浮かせます。

介助者は事前に足元などを確認して、十分な体勢をとってください。急に車いすを上げると利用者が驚きますので、上げる前に伝えるようにしてください。

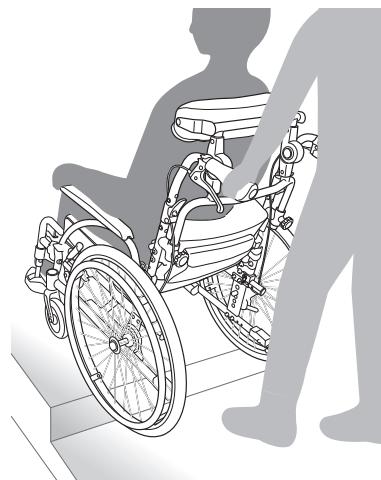


2. そのまま前に少し進み、そっと上段へキャスターを乗せて駆動輪が段差にあたるまで進みます。

キャスターが上段に乗っている事を確認してから、ゆっくりと下ろしてください。

3. 手押しハンドルを持ち、駆動輪を浮かせて上段へ押し上げます。

利用者の頭を介助者が体幹などで支えながら押し上げると、動作が安定して安心感があります。



4. 段から下りるときは逆の手順で行ってください。
(下りるときは後ろ向きで行います。)

⚠ 注意

- ・無理な力による段差の乗り越えは車いすの破損につながります。
- ・無理な力による段差の下りかたは、車いすの破損につながります。
- ・段差のあるところの上り下りは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくりと行ってください。車いすに衝撃が加わると、破損や故障の原因となります。

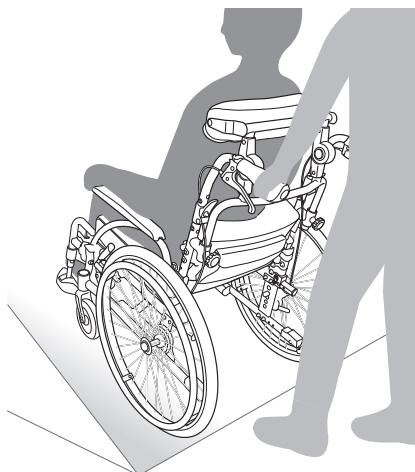
車いすの使いかた

車いすの動かしかた(介助)

● 急坂の上り下り

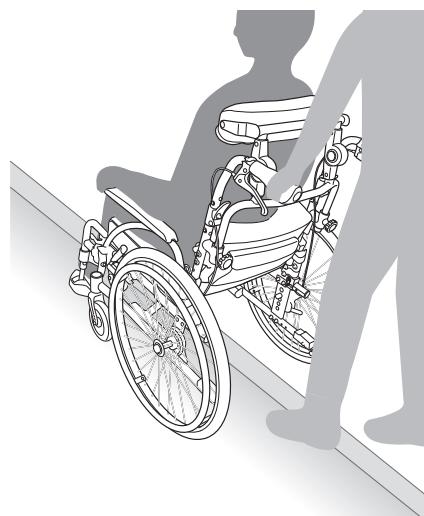
急坂を上るときは前向きで、下りるときは後ろ向きで行います。

坂を前向きで下りると利用者が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードがでやすいなど、非常に不安定になります。介助者がバランスを失ったときも危険です。下りるときは必ず後ろ向きで行ってください。ただし、利用者自身で操作する場合は後ろ向きで坂を下りないでください。



● 左右に高低差がある道を進むとき

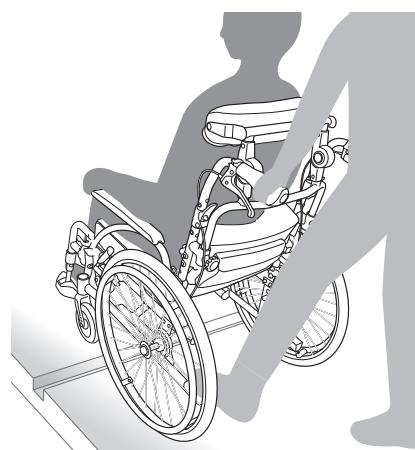
段差が縦方向に続く道など、左右で高低差のある場所を進むときは、介助者が手押しハンドルをしっかりと握り、車いすを操作します。左右に高低差がある道をどうしても進まなければならない場合、車いすが急に低い方向へ向かうと、利用者が横に倒れたり転落することがあるのでご注意ください。車いすの向きや利用者の傾きを十分注意しながら進んでください。



● 溝を越えるとき

溝に対して車いすを直角に近づけ、段差と同じ要領でキャスターを浮かして進み、溝を越えてからゆっくりと降ろします。

駆動輪は溝に落ちない程度に浮かし気味で越えてください。駆動輪を上げすぎると利用者が前へ倒れたり転落があるのでご注意ください。



各部の調節

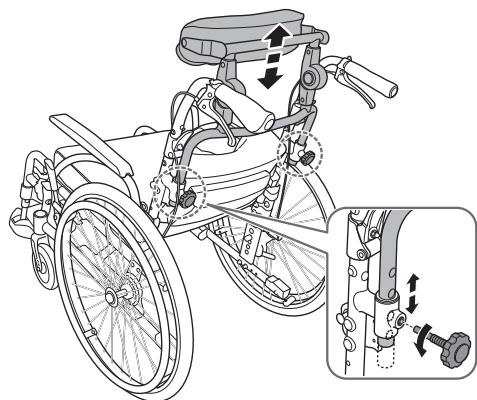
ショルダーサポート

ショルダーサポートは、利用者の肩の位置にあわせて高さと角度を調節できます。

使用する工具：なし

● 高さ調節(5段階)

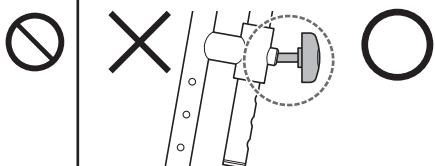
- 両側のノブボルトを反時計周りに回して外し、
ショルダーサポートの高さを利用者の肩の位置に
あわせて調節します。



- ノブボルトを時計回りに回し、固定します。

⚠ 注意

- ノブボルトは無理に締め込まないでください。無理に締め込むとブラケットのねじ部が破損する恐れがあります。必ずノブボルトの角度を確認してください。

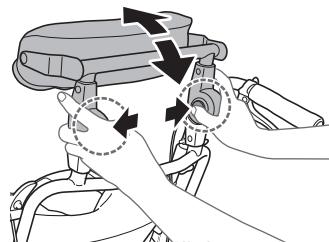


● 角度調節(前側5段階)

左右のショルダーサポートジョイントのボタン部分を両手でしっかりと押しながらショルダーサポートを動かし、利用者の肩にあわせて調節してから、両手を離して固定します。

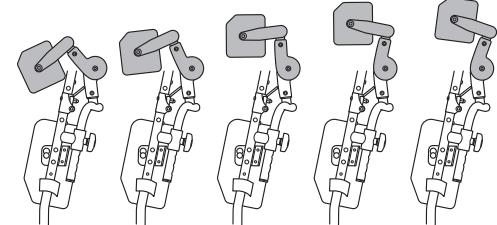
角度は、前側の5段階から選ぶことができます。
後ろ側の7段階は使用しません。

ショルダーサポートジョイントが調節後に動かないことを確認してください。



⚠ 注意

- ショルダーサポートは、ジョイントが肩に当たらない角度でご使用ください。梱包時の状態では使用できません。



使用可能な角度

各部の調節

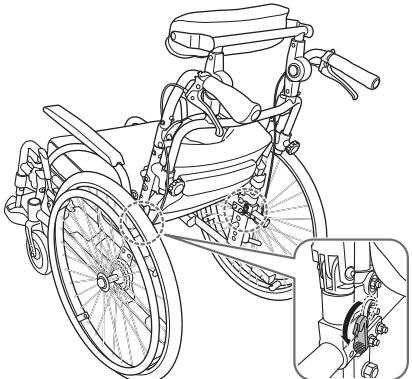
ランバーサポート

ランバーサポートは、利用者の腰の位置にあわせて高さと前後を調節できます。

使用する工具：六角レンチ(4mm)

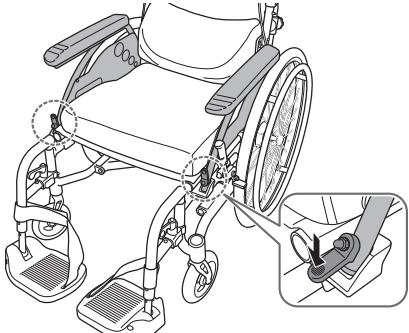
● 高さ(2段階)、前後(2段階)調節

1. アームサポート固定つまみを下方向に降ろします。



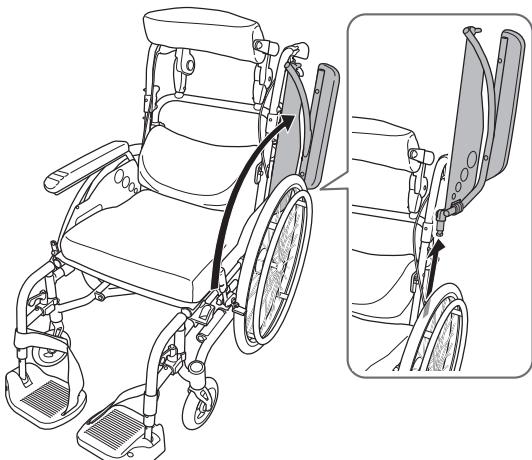
2. アームサポートの固定レバーを押します。

ロックが解除されます。

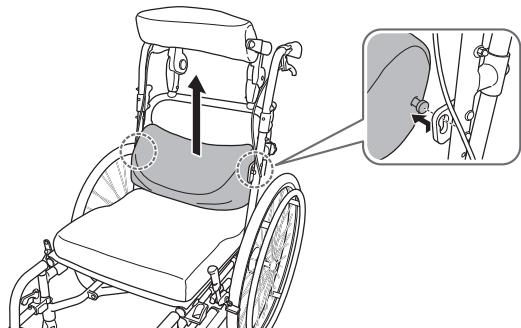


3. アームサポートを上方向へ跳ね上げ、車いすフレーム本体のブラケットから引き抜きます。

反対側のアームサポートも同様に取り外してください。

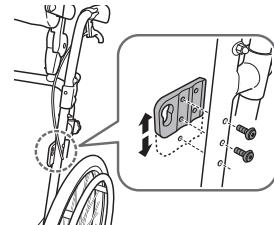


4. ランバーサポートを両手で持ち、内側にたわませながらブラケットの溝から引き抜きます。

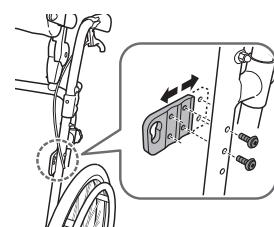


5. 六角レンチでランバーサポートブラケットの六角ネジを外し、利用者の腰の位置にあわせて調節します。

高さ調節は、パイプに開いている縦3つの穴を利用して調節します。



前後調節は、ランバーサポートブラケットに開いている横2列の穴を利用して調節します。



6. 六角レンチでランバーサポートブラケットの六角ネジを締めます。

7. ランバーサポート、アームサポートを取り付けます。

各部の調節

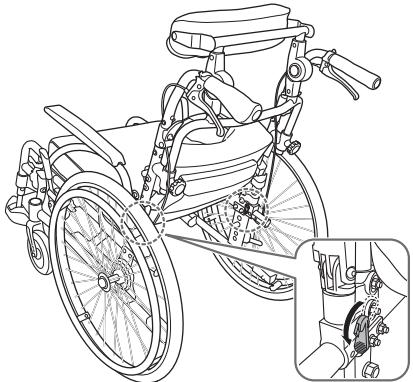
アームサポート

アームサポートは、使用状況にあわせて取り付けや取り外し、跳ね上げができます。

使用する工具：なし

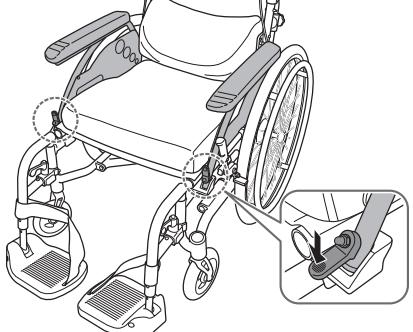
● 取り外しかた

1. アームサポート固定つまみを下方向に降ろします。

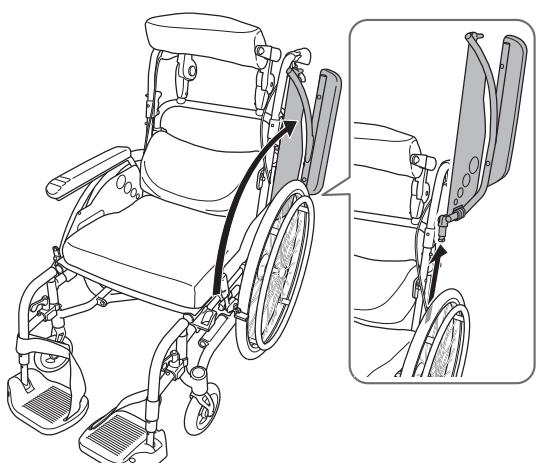


2. アームサポートの固定レバーを押します。

ロックが解除されます。



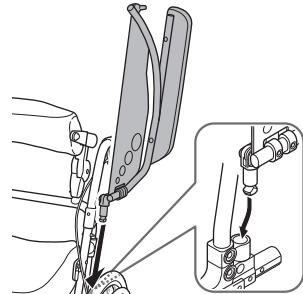
3. アームサポートを上方向へ跳ね上げ、車いすフレーム本体のブラケットから引き抜きます。



● 取り付けかた

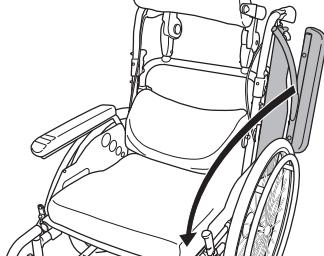
1. アームサポートを車いすフレーム本体のアームサポートブラケットに取り付けます。

操作は片方ずつ行ってください。

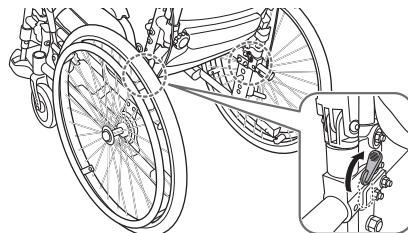


2. アームサポートを下方向へ降ろします。

アームサポートからカチッと音がして、自動的にロックがかかります。

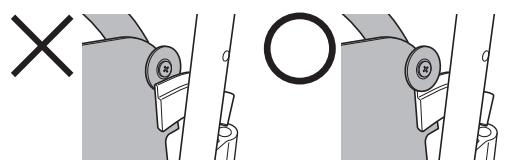


3. アームサポート固定つまみを上方向に持ち上げます。



△ 注意

- アームサポートの隙間に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。
- アームサポートを元に戻すときは、アームサポート側のガイドが、車いす本体フレームの側のガイドの内側に入るようにしてください。



各部の調節

アームサポート

● 跳ね上げかた

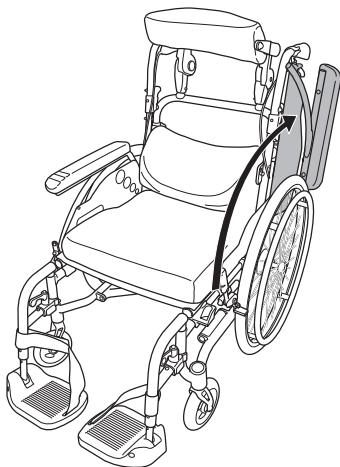
1. アームサポートの固定レバーを押します。

ロックが解除されます。



2. アームサポートを上方向へ跳ね上げます。

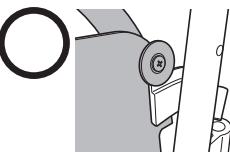
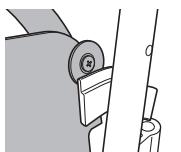
アームサポートが車いすフレーム本体と駆動輪の隙間に固定されるまで跳ね上げてください。



3. アームサポートを元に戻すときは、逆の手順で行ってください。

⚠ 注意

- アームサポートの隙間に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。
- アームサポートを元に戻すときは、アームサポート側のガイドが、車いす本体フレームの側のガイドの内側に入るようにしてください。



レッグサポート

レッグサポートは、利用者の足が後ろに下がらないように位置を調節できます。

使用する工具：なし

● 位置調節

1. レッグサポートの面ファスナーをはがし、利用者の足の位置に合うように調節します。



2. 面ファスナーを貼り付けます。

各部の調節

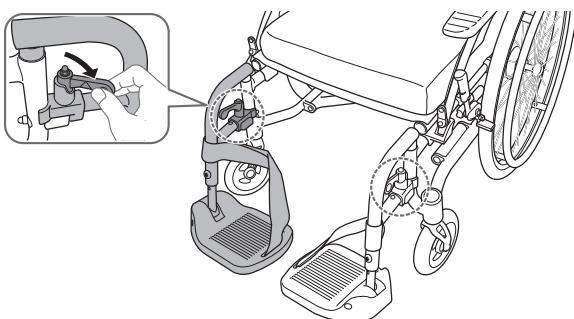
フットサポート

フットサポートは、利用者にあわせて取り付けや取り外し、高さの調節ができます。

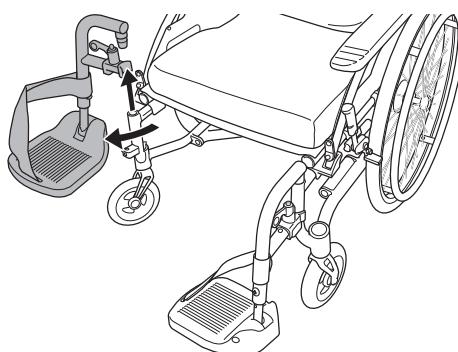
使用する工具：板スパナ、ドライバー

● 取り外しかた

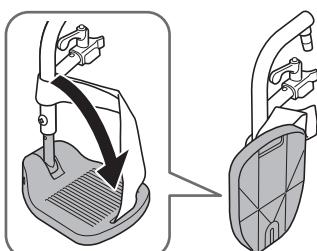
1. フット・レッグサポートの固定レバーをつまみ、外側に引きます。
ロックが解除されます。



2. フット・レッグサポートを上方向に引き抜きます。

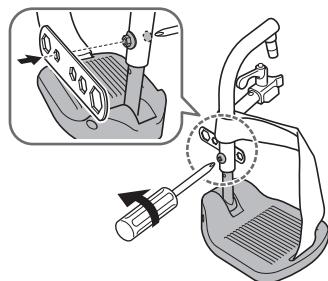


3. フットサポートが閉じている場合は、フットサポートを内側に倒して開きます。

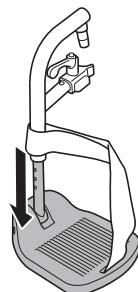


4. プラスドライバーと板スパナを使用して、フットサポートのネジを緩め、外します。

板スパナはフット・レッグサポート裏のナットに当てるください。



5. フットサポートが、フット・レッグサポートのパイプ部分から外れます。

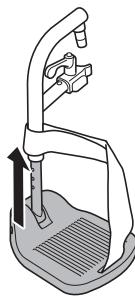


各部の調節

フットサポート

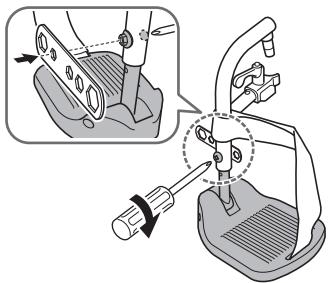
● 取り付けかた

1. フットサポートを、フット・レッグサポートのパイプ部分に差し込みます。



2. プラスドライバーと板スパナを使用して、フットサポートのネジを締めます。

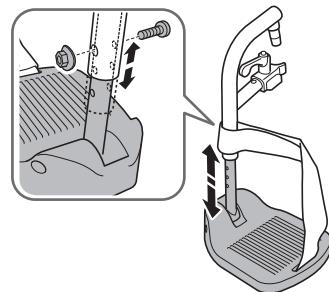
板スパナはフット・レッグサポート裏のナットに当ててください。



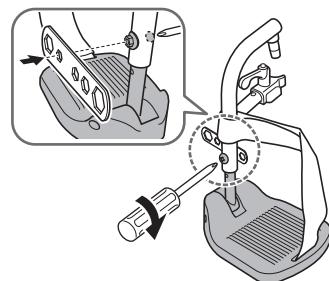
● 高さ調節(3段階)

1. フットサポートを取り外します。
(→22ページ)
2. フットサポートの高さを、利用者にあわせて変更します。

フットサポートは15mmの間隔で3段階の高さに調節することができます。

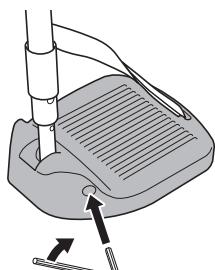


3. プラスドライバーと板スパナを使用して、フットサポートのネジを締めます。



● 固さ調整

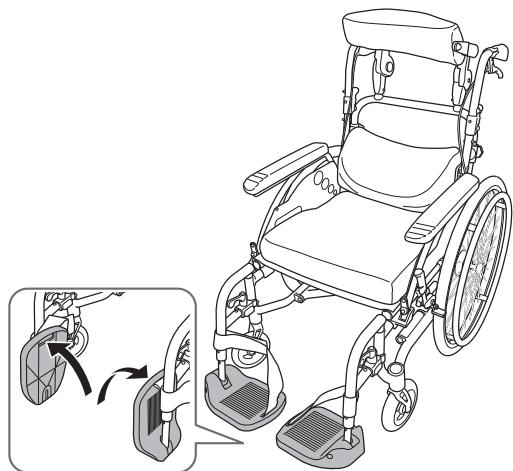
フットサポートが緩んできたときは、六角レンチ(5mm)を使いネジを締めます。



車いすのたたみかた

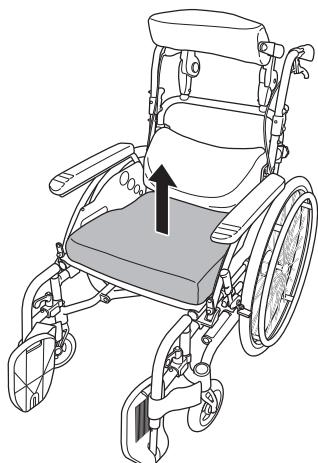
フットサポートの閉じかた

- 両側の駐車用ブレーキがかかるっていることを確認します。
ブレーキがかかるっていない場合は、ブレーキをかけてください。(→11ページ)
- 両側のフットサポートをたたんで閉じます。



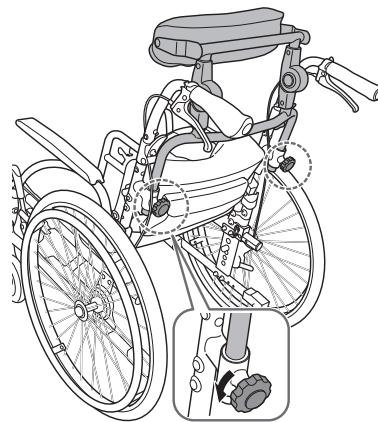
専用クッションの取り外しかた

専用クッションを座シートの上から取り外します。

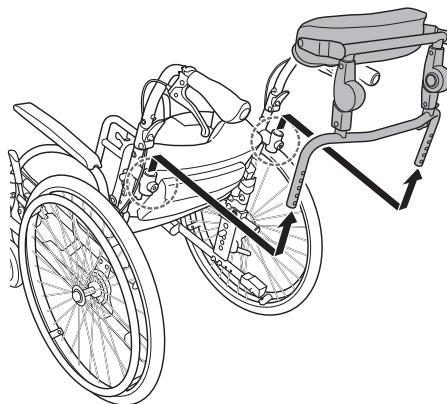


ショルダーサポートの取り外しかた

- ノブボルトを外します。
ノブボルトは反時計回りに回すと外れます。

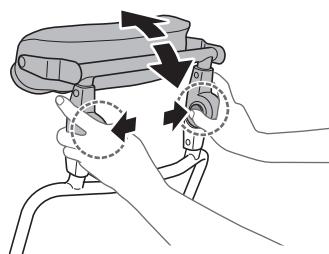


- ショルダーサポートをブラケットから引き抜きます。



- ショルダーサポートを折りたたみます。

ジョイントのボタン部分を両手でしっかりと押し、ショルダーサポートを折りたたんでください。



注意

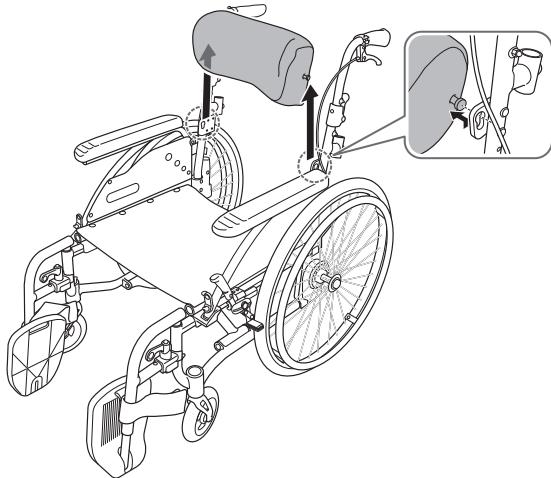


- 取り外したノブボルトは、紛失しないように、ショルダーサポートブラケットに取り付けてください。

車いすのたたみかた

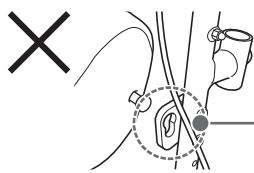
ランバーサポートの取り外しかた

ランバーサポートを両手で持ち、内側にたわませながらランバーサポートブラケットの溝から引き抜きます。



△ 注意

- ランバーサポートブラケットの隙間に手や指を近づけないでください。手ははんでケガをするおそれがあります。

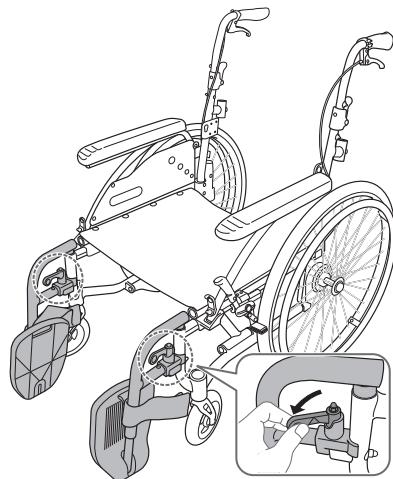


ランバーサポートブラケット

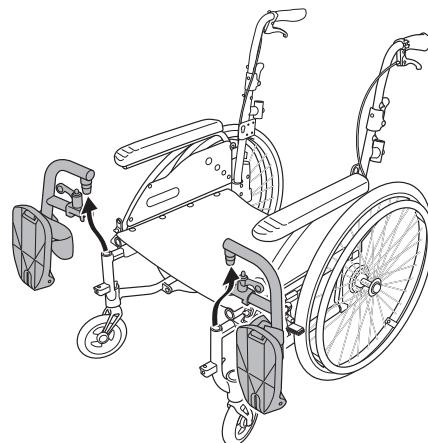
フット・レッグサポートの取り外しかた

1. フット・レッグサポートの固定レバーをつまみ、外側に引きます。

ロックが解除されます。



2. フット・レッグサポートを上方向に引き抜きます。

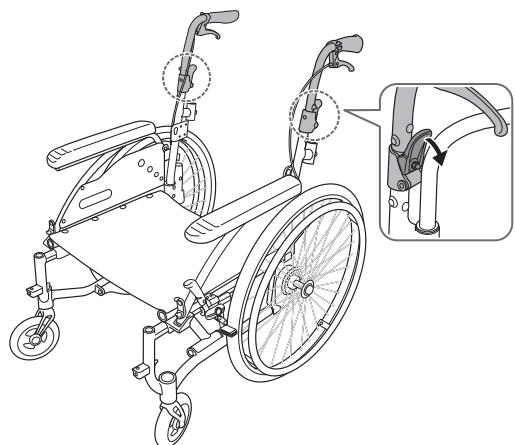


車いすのたたみかた

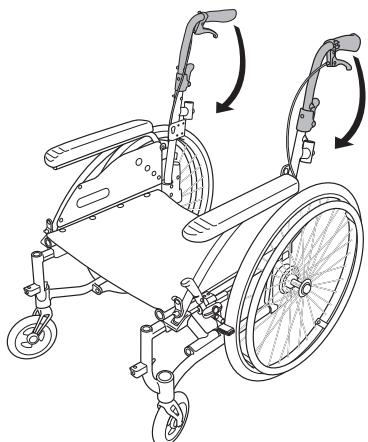
手押しハンドルのたたみかた

1. 背折れジョイントの固定レバーをつまみ、下方向へ押します。

操作は片方ずつ行ってください。

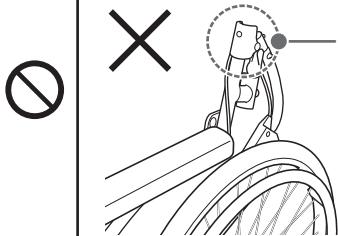


2. 手押しハンドルをゆっくりと下ろします。



△ 注意

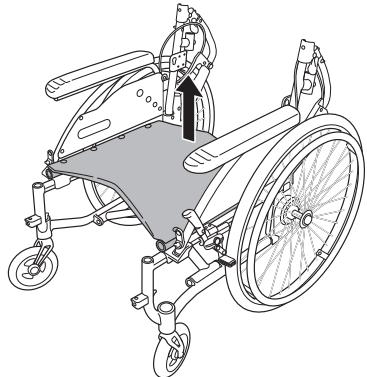
- ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。



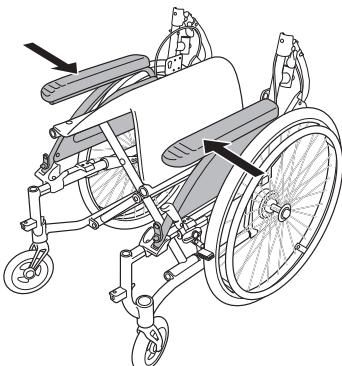
× 背折れジョイントの開口部

車いすフレーム本体のたたみかた

1. 座シートの前側と後側をつかんで、上方向へ持ち上げます。

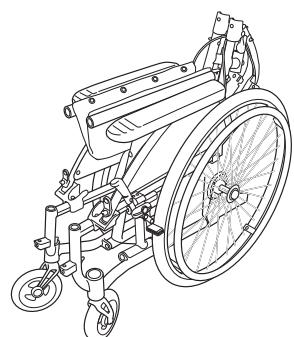


2. 左右のアームサポートを外側から内側に押します。



3. 車いすフレーム本体をしっかりと折りたたみます。

持ち上げた座シートは、車いすフレーム本体に納まるようにたたんでください。



! 注意

- ・サイドガードの隙間に手や指を近づけないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。
- ・座シートのパイプ部分を握って折りたたまないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。



使用上のご注意

保守・点検

長期にわたり本製品の本来の性能を維持するには、日頃の点検などの適切な管理が必要となります。

使用するにつれてその時間の経過とともに部品の劣化や摩耗が進みます。

点検を行うことにより、大きなトラブルを防止し、安心して使用することができます。

外観点検項目：目視あるいは手で外観の傷や変形などを確認する点検です。

1. 各部ネジゆるみや外れ
2. 各部フレーム接合部(溶接部)のヒビ割れや外れ
3. 各部の劣化や摩耗

使用中に不具合を発見されたときには、使用を中断し、速やかに販売店またはお客様相談室に故障状況を報告し、修理を依頼してください。

安易にご自身による故障の修理などは絶対に行わないでください。

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

※修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

● 各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

● 駐車用ブレーキ、介助用ブレーキの調整

定期的に駐車用ブレーキ、介助用ブレーキの調整を行ってください。

● 消耗品、交換部品の確認

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください(下表参照)。

新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡ください。

● フットサポートのゆるみの調整

フットサポートがゆるんできたら増し締めをしてください。



- ・交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながるおそれがあります。
- ・キャスター、駆動輪、駐車用ブレーキ、介助用ブレーキなどのゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- ・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

交換品名	交換時期
駆動輪のタイヤ部分	表面に溝がなくなったとき。
キャスター	表面の摩耗が著しいとき。ガタつくとき。
駐車用ブレーキ	駐車用ブレーキの動作に異常がみられたとき。
介助用ブレーキ	介助用ブレーキの動作に異常がみられたとき。
ブレーキワイヤー	ほつれ、サビが発生したとき。

使用上のご注意

お手入れ・保管方法

日常の汚れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

著しい汚れを落とす場合は、中性洗剤で汚れを拭き取り、乾いた柔らかい布で拭いてください。

⚠ 注意



- ・汚れを拭き取るのに、シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤を含んだものおよび、研磨剤、漂白剤などは使用しないでください。市販のクリーナーを使用するときは、一度目立たない所で試してから使用してください。変色、変質、商品を傷める原因となります。
- ・乾燥機による乾燥は縮みの原因となりますのでおやめください。

● 車いすフレーム本体のお手入れ

車いすフレーム本体の汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。

拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。

水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。

● クッション類のお手入れ

中性洗剤を水で薄め、布にしみこませ固く絞って拭いてから、自然乾燥させてください。

シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使用しないでください。

ただし、専用クッションのみカバーを取り外して、石油系溶剤によるドライクリーニングが可能です。

ドライクリーニングをする場合は、ファスナーを開けて、中のウレタンを取り外してください。

● アームサポート、手押しハンドルの樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

● ハンドリムのお手入れ

ハンドリムの表面にキズを見つけた場合は、安全のため紙ヤスリなどで滑らかにしてください。

● 点検

清掃時は各部のキズ、亀裂、ネジなどのゆるみ、タイヤの表面を点検し、ゆるみがあれば増し締めを行ってください。

● 保管・収納について

収納スペースが少ないときは、ショルダーサポート、ランバーサポート、専用クッションを外し、フット・レッグサポート、座シートを折りたたんで保管してください。

フレームのサビや駆動輪のタイヤの劣化、キャスターのタイヤの劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

⚠ 注意



- ・長期間車いすを保管して動かさないときは、車いすの下に布などを敷いてください。キャスターのタイヤやフットサポートのゴムが床に移行する可能性があります。



- ・屋外で保管しないでください。車いすが雨に濡れるとサビ、各部の劣化の原因となります。
- ・高温の場所(夏場の車のトランクなど)に保管しないでください。樹脂部品の変形などの原因となります。

困ったときには

こんなときには

使用中に「故障かな?」と思ったら、弊社または販売店へと連絡される前に下記の項目を確認してください。

症状	チェック項目	対処方法
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。 車いすは、傾斜面では低い方へキャスターが流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 自走用の場合は、傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。介助用の場合は、傾斜面の低い側に当たるグリップに、より力を入れて押してください。
	キャスターの回転に左右差がありますか。キャスターの軸の回転がスムーズですか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼してください。
	駆動輪、キャスターの計4輪がきちんと地面に接地していますか。	
駐車用ブレーキがかからない。	駆動輪のタイヤが摩耗していませんか。	
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが駆動輪に当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼してください。
介助用ブレーキがかからない。	ブレーキワイヤーが折れ曲がったり、引っかかったりしていませんか。	ブレーキが確実に動くように、ブレーキワイヤーの取り回しを修正してください。改善が見られない場合は、販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼してください。
	ブレーキワイヤーがゆるんでいませんか。	
異音がする。	身の回りの物が車いすフレーム本体や駆動輪に干渉していませんか。	身の回りの物は駆動輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分から音がしていませんか。	
	ネジなどがゆるんでいませんか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼してください。
	摩擦音がしていませんか。	
アームサポートが入らない。	アームサポートの固定レバーが破損していませんか。	販売店または弊社お客様相談室へ修理を依頼してください。
	アームサポートが車いすフレーム本体に正しく取り付けられていますか。	取扱説明書(本書)を参照してください。(→20ページ)

困ったときには

アフターサービス

● 保証書および保証期間について

保証書：所定事項の記入および記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間中に修理を依頼される場合：保証書の記載内容に従って修理いたします。

保証期間を過ぎて修理を依頼する場合：修理すれば使用できる場合は、希望により有料で修理いたします。

● 修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に取扱説明書をよく読み、再度点検の上、なお異常がある場合は、販売店または弊社お客様相談室へ連絡してください。

ご連絡いただきたい内容

- ・ご住所、ご施設名、ご氏名、電話番号、型式名、販売店、お買い上げ日、故障または異常の内容(できるだけ詳しく)

● お客様相談室

弊社の商品は厳格な検査を経て納入致しておりますが、万一不具合な点がございましたら、販売店または弊社お客様相談室までお問い合わせください。

フリーダイヤル

 0120-39-2824

受付時間：月～金曜日 9時～12時、13時～17時

※土、日、祝祭日、年末、年始、弊社指定の休日等は除く

製造元：フランスペッド株式会社

〒196-0022 東京都昭島市中神町1148番地5

耐用年数

耐用年数とは、消耗部品の交換や修理を繰り返し行うことで品質、安全性が維持できる期間です。

指定された保守点検を実施し、指定された使用条件下で使われた場合の耐用年数は6年です。

但し保守点検状況により差異が生じることがあります。

耐用年数の6年経過後使用される場合は販売店または弊社にて点検していただきますようお願いします。

※耐用年数は保証期間ではありません。

廃棄方法

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

仕様

製品の仕様

全長	985mm
全高	950mm ~ 1050mm
全幅	635mm / 315mm(折りたたみ時)
前座高	485mm
後座高	450mm
シート幅	430mm
シート奥行き	400mm
ランバーサポート 幅/高さ	幅: 370mm / 高さ: 250mm
ショルダーサポート 幅/高さ	幅: 350mm / 高さ: 150mm
アームサポート高さ	150mm(後座高より)
手押しハンドル高さ	870mm
ショルダーサポート推奨調節角度	18° 5段階
キャスター	6インチ
駆動輪	22インチ
フレーム材質	アルミ、鉄、樹脂
座シート材質	ポリエステル
クッション部分材質	ウレタン材
耐荷重	100kg
重量	17kg

※ 製品の寸法には多少の誤差があります。

※ 製品仕様は品質改善、製品追加のため予告なしに変更することがあります。

保証書

◇◇◇ 保証書 ◇◇◇

この製品は、厳重なる品質管理及び検査を経てお届けしたものです。
お客様の正常なご使用状態で製造上の不備により故障した場合には、本保証書記載内容によりお買い上げの販売店が受付け致します。
※修理はお買い上げの販売店に必ず本保証書を提示の上、ご依頼下さい。
※本保証書は再発行致しませんので、大切に保管して下さい。

フランスベッド株式会社

〒196-0022 東京都昭島市中神町1148番地5 TEL 042(543)3111(代表)

型式 マルチフィット車いす MFW-ENJ415

保証期間 お買い上げ日 年 月 日から1年間

お客様 ご住所 〒

ご氏名 電話番号
様

販売店

修理の記録

◇◇◇ 保証規定 ◇◇◇

1. 保証期間内に正常なる使用状態において製造上の不備により故障した場合には、無償修理致します。お買い上げ日及び販売店名は、納品書又は領収書等で確認させて頂きますので、保証書とともに紛失しないよう保管願います。
2. 次のような場合には、保証期間内でも有償修理になります。
(イ) 使用上の誤まり、不当な修理や改造による故障及び損傷。
(ロ) お買い上げ後の転倒、落下等による故障及び損傷。
(ハ) 火災、地震、風水害、落雷やその他の天災地変、公害、ガス害、塩害等による故障及び損傷。
(二) 本保証書のご提示がない場合。
(ホ) 本保証書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入が無く、納品書又は領収書等にて必要事項の確認ができなかった場合。
(ヘ) 保証書の記載事項の字句を書き替えられた場合。
(ト) 離島や離島に準ずる遠隔地については、弊社規定に沿い訪問に要する実費を申し受けます。
3. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
4. 法的責任：この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせ下さい。
5. 保証の対象：本体及び付属品。但し、消耗部品、縫製部品、別売部品は除く。
6. 免責：本製品の故障の放置又はその使用によって生じた、直接、間接の損害についての保証は、一切その責を負いませんので、予めご了承下さい。

発売元

フランスベッド株式会社

〒196-0022 東京都昭島市中神町1148番地5